

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100041		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホーム つつじの丘		
所在地	〒820-0301福岡県嘉麻市牛隈2510番地98	0948-57-4150	
自己評価作成日	平成 23年12月21日	評価結果確定日	平成24年02月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的な医師の訪問で健康を管理し緊急時迅速に対応している。「生活する方達とその家族の思いを大切にしゆっくりのんびりそっと寄り添う」との理念のもと利用者様が最後まで自分らしく生活できるように支援するよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「つつじの丘」は見晴らしの良い丘の上の住宅街の中に、デイサービス併設で、2ユニット平屋建てのグループホームである。母体が医療法人で、看護師である管理者は、利用者の緊急時や主治医との連携をきめ細かく取りながら、職員の観察力を活かし、家族に信頼される医療体制を目指している。開設8年目を迎え、利用者職員は、家族のような関係で、深い信頼の絆で結ばれ、家族の評価は高いものがある。特に、利用者の居室に家族との連絡帳をおき、ホームに対する意見や、要望、苦情等を記入してもらい、利用者や家族の思いを、しっかり受け止めて、介護サービスを提供する体制は、充実している。また、ホームの夏祭りに地域や家族の方に参加してもらい、小学生の交流と合わせ、新興住宅地ではあるが、和やかな交流も始まっているグループホーム つつじの丘である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年02月10日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの方針を運営規定、重要事項説明書に明記し、ゆっりのんびりそっと寄り添い安全、安心、安楽なサービスが提供出来る様に理念に掲げ共同空間に提示している。	利用者と家族の思いを大切に、その人らしい人生が継続できるようにそっと寄り添うこと、笑顔と思いやりを持ち日々自己研鑽に努めることを理念に掲げ、ミーティング時に唱和し、職員一人ひとりの自覚に向けた取り組みに繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月回ってくる回覧板で地域の情報を得たり、地域ボランティア活動に参加したり、ホームの夏祭りに地域の方達をお招きしている。	ヨーヨー釣り、炭坑節等で盛り上がるホームの夏祭りには地域の方を招待し、交流を深めている。また、小学生の体験学習の受け入れや、七夕集会への参加等を通して、子供たちがふらっと立ち寄り関係もでき、「つつじの丘新聞」の配布と合わせ、地域と信頼関係を築く努力が始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サーボタの講習会に職員が参加し職員もサポーターとなり地域の中で活動できるように努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当者、民生委員、家族の参加で年間行事の相談や行事報告を行いサービス向上に活かしている。	会議は、家族、民生委員、行政職員の参加で、2ヶ月毎に開催している。報告事項の他に、行事についての意見交換等が行なわれている。新興住宅地であることから、地域からの協力を今後の課題として取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より連絡を取り合いホームの運営の相談や事故等の報告、連絡をし協力関係が築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状を理解してもらっている。また、ケースワーカーと連携をとり、行政担当窓口に出向き相談を行なう等、協力体制を整えている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は原則的に行っていないが時折安全を考え施錠するときもある。身体拘束については勉強会を開いたり身体拘束禁止規定を掲示し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、内部研修で職員全員への周知を図り、拘束が利用者にもたらす弊害を理解した上で、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを整備し又、勉強会を開き職員教育を行って虐待が見過ごされないよう注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1人暮らしのご家族や遠方の方等については市の包括支援センターと連絡を取り支援しているが成年後見制度について学ぶ機会が少なく内外の研修も行っていない。	現在、制度の該当者はいないが、制度の理解と活用を目指し、資料を整備し理解して、利用者や家族の要望に応える努力をしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や御家族に対し契約書及び重要事項説明書の内容を説明して理解と納得をして頂いている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見苦情窓口を明記しユニット毎の玄関横に意見箱を設置している。	玄関の意見箱、居室の入り口にかけられた連絡帳のやり取り、家族交流会等、利用者や家族の意見表出の機会を設け、出された意見はホーム運営にできるだけ反映できるよう努力をしている。また、来訪できない家族には、郵送や電話等で連絡を取り合っている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うホームカンファで職員の意見や提案を聞くようにしている。又、毎朝の朝礼でミーティングし意見や提案の機会を設けている。	定期的に職員会議を開催し、意見を出しやすい雰囲気作りに努めるとともに、欠席する職員には前もって意見を聴く等、日々のミーティングと合わせ、職員の意見を聞き取る機会を持ちながら、出された意見を尊重し、反映させる努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	担当制にし各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備をしている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に当たっては性別や年齢等を理由や採用対象から排除している。職員の希望に添った勤務体制にしている。	職員の採用は、人間性ややる気を重視している。また、得意分野を活かし、適材適所に職員を配置し、生き生きと勤務できる環境を作っている。また、ロッカーを整備し、利用者の状態を見ながら交代で休憩時間をとる等の配慮がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様に対する人権尊重は理念に掲げ朝礼で職員に話しをしている。	理念を唱和する度に、理念の内容について職員全員で確認する事で理解を深め、利用者の尊厳を守る取り組みに繋げている。	外部の人権研修に参加し、内部で伝達研修を行い、職員間で学びながら共有を図り、人権教育、啓発活動に繋げる努力が望まれる。
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けたり働きながらトレーニングしていくことを進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的と同業者を訪問しているが勉強会等は行っていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所に当たっては家族、本人に施設見学をしていただいたり自宅や病院に出向き話を聞くなどしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時より本人、御家族の話を伺い困っている事や不安な事を表出しいたたけるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式でアセスメントし入居者の今までの暮らしぶりや趣味等を活かせるプラン作りをしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔と真心でみんなが楽しく暮らせるよう入居者の出来る事は一緒に調理や配膳、洗濯や掃除を行っている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人のケアプランを立案したり家族の事情が許す限り外出の機会を作りゆくり過ごして頂いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が本人の面会に来やすいように声掛けをしたり馴染みの場所にホームの車でドライブしている。	今は住んでいない自宅の庭にみかんを採りに行ったり、自宅周辺の公園や石炭記念館等、利用者一人ひとりの行きたい所への同行、また、友人、知人、遠い親戚の来訪を歓迎する等、利用者の馴染みの関係継続に向けて支援をしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い者同士で車で出掛けたり将棋をしたり利用者同士が関わりあい支えあえるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に帰られる方には手紙を出したり電話をしたりしている長期入院の方には時々病院へのお見舞いを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのケアプランを把握し思いや意向に沿ったケアに努めている。困難な場合にはモニタリングで検討しケアプランを見直している。	センター方式を採用し、利用者のきめ細かなアセスメントを職員一人ひとりが理解する事で、利用者が今何をしたいのか、どこへ行きたいのか等を把握し、家族とも協力しながら、できるだけ利用者の意向に応えるよう支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式にてアセスメントしこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	継続できるよう部屋の担当を決め支援している又毎日の受け持ちを決めバイタルチェックを行い気分や状態、動きなどに気を配っている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度評価の見直しをし急を要するときはその都度スタッフ、家族とモニタリングしケアプランを作成している。	介護計画は利用者、家族の希望を優先し、医師や関係者と検討しながら3ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があった場合は、家族と連絡をとりながら、その都度見直しを行っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人記録に記入し情報を共有し申し送りや意見交換して計画の見直しに活用している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に訪問や体験入所及び妻が入所の場合は夫が一日妻と共に過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会の介護相談員の訪問を定期的に依頼し入居者様の相談などを聞いてもらっている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿ったかかりつけ医を継続している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医の受診を家族と協力しながら支援している。また、協力医療機関の往診、管理者が看護師であることも合わせ、利用者が安心して医療が受けられる24時間医療連携体制を確立している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の個人記録や体温表に目を通し本人の顔色や動きを見て異常がないか観察している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は入院先の看護師やソーシャルワーカーと連絡を取り情報交換や相談に努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に利用者の容態が重度化した場合における対応指針の説明を行ってその様に支援している。	「利用者の容態が重度化した場合における対応指針」を作成し、利用者、家族に説明し、方針を共有し、母体である医療法人のバックアップを受けながら、可能な限りホームでの生活を継続出来るよう支援している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命士の講義を受けたり緊急時対応の勉強会を行ったりしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し避難場所を市と話し合ったりしている。	自衛消防団による避難訓練を定期的実施し、非常口、非難経路、避難場所の確認と合わせ消火器の扱い、誘導時の声掛けの確認を行っている。また、防火訓練の様子を「つつじの丘新聞」で知らせている。	夜間を想定し、地域住民の協力を得ての避難訓練の実施と、電気、水道、ガスの使用が出来ない場合を想定した非常食、飲料水の備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり尊重とプライバシーについての業務マニュアルを作成している。職員が入居者様を人生の先輩として人格を尊重した対応が出来るよう努力している。	職員は利用者を年長者として尊敬し、利用者と家族のような関係を築く中で、利用者と心配したりされたりの関係は見えていて微笑ましく、家族からの信頼は深いものがある。また、個人情報の資料は見えない場所で厳重に保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物を選んだり催しの参加不参加は本人の希望を聞き無理強いしないようにし本人の希望に沿えるようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて本人の気持ちを大切に支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、自分を好みの服を選んでいただいたり外出時にはおしゃれをして頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けなど出来るところは利用者様に手伝っていただいている。食事と一緒に片付けも一緒に行っている。	エプロンを着用した利用者が職員と一緒に生き生きと調理をする姿が見られた。利用者、家族の要望を受け、改善された食事はとても美味しいと評判で、利用者と職員は同じテーブルを囲み、談笑しながらの楽しい食事風景である。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算した食事を提供している。食事量、水分量のチェックを行っている。水分量の少ない人やその時の健康状態に応じて水分補給をしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い一人で出来ない人は介助し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや誘導してトイレで排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握した上で声掛けや誘導によって、入居前、紙おむつであった利用者が布パンツに変わる等の成果が見られ、利用者の自信回復に繋がっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動などの働きかけをしている。野菜を軟菜にし食べやす工夫をしたり便秘の予防に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自分の好きな時間に入浴できるように希望は伺ってはいるが毎回、希望通りには行かない。	入浴は、1日おきに行なっているが、毎日入浴を希望される利用者には出来るだけ入っていただけるよう支援している。また、入浴を拒まれる利用者に対しては、時間をずらしたり、職員を代えたり工夫をしながら、無理強いせず入浴が出来るよう取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて休息して頂いている。夜間眠れない時は会話をしたりしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋に目的や副作用が副作用が明記されている。職員が把握出来るようにカルテにつづり確認できるようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で出来る事は手伝っていた感謝の気持ちを伝え次につなげるよう努めている又レクリエーション、ドライブ等で気分転換を図っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中で日頃行けない所に行ったり個別に本人の希望する場所へ行けるようドライブ等の支援をしている。	紅葉狩り、お花見、ドライブ等、年間行事の中での外出や、近隣への散歩、買い物等、少人数で出かける支援を細やかに行き、利用者の生きがいに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で買い物に外出した時はお一人ひとりに現金を持って頂き自由に買い物をして頂いている。日常はお一人ひとりは現金を所持されていない。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人持ちの携帯電話で自由に連絡している方もおられる。希望があればホームの電話でしている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動きやすい様整理しテレビの音も調整している。リビングの壁に季節の絵や切絵を利用者様と一緒に作成し掲示している。	高台に位置するホームは左右対称の2ユニットで、ユニット間の広いウッドデッキは風の通りが良く、ここで好み焼きパーティーをする等、利用者の憩いのスペースになっている。リビングの壁には季節にちなんだ手作りの作品が掲示され、畳の間は、利用者のごろんと横になったり寛げる共用空間になっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設け畳の部屋も設け気の合った利用者様同士が過ごせる様にしている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に本人や御家族の思い通りにし使い慣れた物や本人の好みの物を買って足している。	居室は、利用者が安心して過ごせるように、家族と協力しながら、馴染みのダンスや仏壇、小物や写真等持ち込んでもらい、自宅のような感覚で安心して過ごせる空間である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室は手すりを設けている。ウッドデッキには自由に入出入りできるようにしている。洗濯物等は利用者様が干しやすい様に低い物干し台を置いている。		